

青年部・女性部

野の花と風薫る郷 高森町

く七夕飾りでまちおこし

熊本県高森町商工会女性部

高森町は、阿蘇五岳の一つ、根子岳の南東に位置し、宮崎県と大分県の県境にある人口八〇〇〇人弱の小さな町です。

昭和四十八年、宮崎県の高千穂線の終着駅（高千穂駅）と豊肥線立野駅から出ている高森線の終着駅（高森駅）とを連結させるため、トンネル工事に着工しました。

ところが、昭和五十年二月、高森峠の真下の水脈を切断してしまい、国鉄再建の影響もあり、鉄道連結を断念することとなりました。今でもそこから毎分三六トンの水が湧き出ています。

現在、そのトンネルは「高森湧水トンネル公園」という水と緑の公園になっています。トンネルの全長は五五〇メートルで、その奥に「ウォ

ーターバル」という水と光の美しい芸術を見ることが出来ます。特殊ストロボを当てることで、水が真珠のように輝きながら落ちていたり上がってみたり、時には静止しているように見えたりします。

また、七月上旬に、七夕まつりが催され、トンネル内に七夕飾りが飾られます。高森町内の保育園・幼稚園をはじめ、企業・団体がそれぞれに工夫を凝らし、七〇基ほどの七夕飾りがトンネルの中を彩ります。近年は町外からの参加も多数あります。また、十二月には、クリスマスファンタジーが催され、クリスマスツリーが飾られます。

この高森湧水トンネル公園に、年間三〇万人の観光客が訪れます。その観光客を街なかに呼び込めないだ



みんなで作って楽しかったで賞

ろうか？というのが私たち女性部の活動のきっかけとなりました。街なかまで、七夕飾りを広げたら、そぞろ歩きで街なかを散策してもらえないのではないかと…。

まず、最初の年は、近くの商店数軒に飾っていただきました。翌年からは、少しずつ広がり、一昨年から、町内の広報誌で一般の方からも公募しました。それと同時に、女性部の役員で見て回り、工夫を凝らした七夕飾りを表彰し、賞品として高森町の特産品の酒や醤油・饅頭などを進呈しました。

さまざまな賞の中で、老人ホームの皆さんが作られた敷地内いっぱい



かわいらしい感じがとても良かったで賞



昔懐かしい感じがするで賞

に花のアーチがつながった七夕飾りが「みんなで作って楽しかったで賞」、紙で作ったスイカや和紙に切り込みを入れて作った天の川が飾られた七夕飾りが「昔懐かしい感じがするで賞」、古着のリフォームをされる方が、ボタンをてるてる坊主のようにして

飾った七夕飾りが「かわいらしい感じがとても良かったで賞」に選ばれました。みんなそれぞれに工夫され、とても素敵なものばかりでした。

七夕飾りは、青年部の方たちに協力してもらい、竹を切り出してもらいます。年々その数が増え、昨年は二百本近い竹を切り出してもらいました。その竹を希望していただいた方に配布していくわけですから、青年部の方たちには、大変感謝しています。女性部部員は、それに飾る短冊を用意します。大・小二種類のカラーテープを二〇センチほどの長さで切り、数色をセットにして袋詰めしていきます。

最初の頃は、あだこうだと言いつつ合いながら、夜の十二時近くまでかかり、それでも終わらなかつたこともありましたが、近年では、随分慣れてきて、世間話をしながら楽しく作っています。部員間の交流という点でも有意義な活動です。

当初、女性部部員は、旧高森町（昭和二十八年に高森町と色見村・草部村が合併し、続いて昭和三十三年に野尻村と合併した）の商店の奥さんたちの集まりでした。七夕飾りを

通じて他の地区の方たちと会話ができ、七夕飾りが広がっていくとともに、今では、日本三大下り宮（鳥居から神殿に続く参道が下りになっている神社）の一つ、草部吉見神社がある草部地区や、高森名物の田楽（つるのこ芋・コンニャク・豆腐・ヤマメなどを串に刺し、炭火で焼き味噌をつけて食べる）の店が多数ある上色見地区にも広がっていきました。

活動を通じて、女性部に加入していただいたり、それを機に親会にも加入していただいたりすると、活動の成果を感じるとともに、続けてきて良かったと思います。

女性部の活動はほかにたくさんあります。二月中旬から三月中旬にかけて開催される「たかもり新酒とふるさとの味まつり」のラストイベントに出店したり、八月十七日十八日の「風鎮祭」の総踊りに参加したり、県のミニバレー大会に参加したり（昨年は準優勝でした）と、年間を通して、忙しく、また、楽しく活動しています。

今後も、青年部、親会と協力し合っていて、女性らしく、元気に楽しく活動していきたいと思っています。